

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 北川 波輝

1. はじめに

私は2018年3月1日から26日までの間、タイにあるシーナカリンウィロート大学へ留学に行きました。この留学においては、国際交流基金の助成を受けて、交換留学生としての活動を通して、大きく成長することができました。私がタイで楽しく最後まで活動できた理由は、現地の5年生の方々や先生、大阪薬科大学関係者の多大なる支援のおかげであることを最初に申し上げます。

2. Home health care

留学中にチーム医療の一環として、在宅医療に参加させていただきました。主に病院から離れている家を訪問させていただいたため、かなり田舎の家に伺うことが多かったです。田舎の家ではかなり衛生状態が悪く、家の中に蚊やハエなどの虫がいるのは当たり前の環境でした。場所によっては異臭を放つところもあり、タイの田舎における衛生状況は芳しくありません。そんな中で、医師・薬剤師・看護師が一丸となって、患者の治療を行っていました。一回目の在宅医療体験の際には、統合失調症の患者が多かったのですが、予想外にみんな笑顔で楽しそうな様子でした。患者も医療チームも皆ほがらかで、タイ人のやさしさやのんびりした生活が垣間見えました。誰も忙しそうに暮らしてはおらず、患者も幸せそうで、ゆとりある生活は日本も見習うべきだと思いました。



二回目の在宅医療体験の際は、リハビリテーションのグループに参加させていただきました。糖尿病の患者は関節痛がひどいようで、薬剤師から処方された薬以外にも、自分で買った薬を飲んでいました。その薬は、抗生物質や解熱鎮痛薬で、患者に適さないものでした。何度も薬剤師は患者に正しい使い方を指導していました。医学的知識の乏しい患者たちに信頼してもらうことや、アドヒアランスを良好に維持していく大切さを実感しました。



在宅に伺った家庭はどれも貧しく、不衛生なところが多かったです。車などの移動手段を持っていないために、医療チームが在宅医療に向かっていました。さらに貧困状態の家庭は医療を無料で受けることができ、誰もが平等に医療受けることのできる体制が整備されていました。



3. Mini project

Mini project では製剤学の授業で行ったような実験をしました。ある物質を含んだ錠剤を加熱したものと加熱してないものに分け、それぞれ回転バスケット法により溶解試験を行いました。含まれている薬効成分量は同じで添加物の種類と配合率が異なった錠剤の溶解割合を調べました。このMini project の目的は、留学中にどの錠剤が最も溶けやすいかの条件を見つけ出すことでした。複数日にわたって測定を行い、結果を導き出し、Excel でグラフを作成して担当の先生に提出しました。英語で実験の講義を受け理解していくことに最初は戸惑いを感じましたが、優しい先生のおかげで次第に慣れていき、とてもスムーズに実験を進めていくことができ、自信につながりました。

4. Drug store

シーナカリンウィロート大学附属薬局へ見学に行きました。その薬局は日本の薬局よりもコンパクトな薬局でした。タイの薬局では調剤を行わないからというのが一つの理由です。調剤ができるのは病院だけのため、狭い場所でも十分な数の薬をそろえることができ、患者への薬の受け渡しが日本に比べて圧倒的にスムーズでした。日本の薬局では待たされるのがほとんどですが、タイの薬

局では患者が待たされる場面は見たことがありませんでした。日本の薬局でも調剤したり、なんでもかんでも包装したりするのではなく、もっとスムーズに薬を渡せるよう見習うべきだと思いました。また、タイの薬局では、処方箋がなくても薬剤師がいればほとんどの医療用医薬品を買うことができます。そのため薬剤師は日本よりも身近な存在で、具合が悪くなったり、なにか違和感をおぼえたりしたときに、薬剤師にすぐ相談ができる環境が整っていました。日本のように医師からの処方箋がないと保険薬局に行くことはない、という空気はありませんでした。タイのように処方箋がなくても患者が薬局に来てくれるような、暖かみのある薬局づくりを目指したいです。



5. CKD clinic

シーナカリンウィロート大学の附属病院のCKD(慢性腎臓病)クリニックを見学しました。CKDの患者は、日本と同じで糖尿病の患者や高齢者が非常に多く、たくさんの薬を飲んでいました。またCKDの患者には、食べてはいけない食べ物や、飲んではいけない薬がたくさんあります。そのためタイでは腎臓病専門の医師や薬剤師が協力して患者の状態をチェックしていました。タイ特有のハーバルメディシンや腎臓病に良いとされる食べ物を、薬剤師が丁寧に患者に説明していたのです。

ほかにも薬の管理の仕方が難しいものもありました。例えば、インスリンは暑すぎる場所でも冷やしすぎてはいけないため、冷蔵庫の中でもインスリンに最も適する温度の場所を大きなポスターを使って説明していました。またタイでは薬の名前が英語で書かれているため、一般人が薬の名前を覚えにくいのです。そこで薬を赤や緑のようにカラフルにすることで、患者が薬の名前を憶えていなくて

も、自分で薬の管理ができるような工夫がされていました。日本でも患者がたくさんの薬を自分で管理するためにもっと何らかの取り組みをしていけば、患者の状態もさらによくなると思います。



6. Lab pharmacognosy

薬学実習では、全部で2種類の実習に計4回参加しました。1つ目は植物学の実習です。タイではたくさんの植物が自生しており、それを活用した生薬がタイの医療では盛んに活用されています。そのため、タイの薬学生は非常に詳しい植物学の授業を受けており、毎週小テストを受けていました。なにより驚いたのは、薬学の専門用語を薬学部2年生みんなが英語で説明することができたことです。誰に聞いても専門用語を使って英語で説明してくれます。植物学を勉強したことがなかったのでわからないことも多かったです。植物の面白さと奥深さを知ることができました。



2つ目は学生たちと一緒にやって行く薬学実習でした。実習内容としては、ローション剤とリニメント剤をつくることでした。実際の薬効成分を使用し、英語の実習書をもとに講義を受け、自分たちで量や HLB から計算して、学生が主体となって実習を進めていきました。大学で習っただけのところだったので、実際に自分たちの手で医薬品を調合していくのはとても面白かったです。この大学の pharmaceutical sciences のクラスでは毎週医薬品を調合しているため、実務的な薬学生のレベルが高かったです。もちろん薬学生全員が専門用語を英語で説明できるので、みんな私がいけないときにいつも助けてくれました。



7. Professional English

4年生と一緒に英語の授業を受けました。専門的な薬学英语のリスニングの問題をみんなと一緒にやりました。私にとっては知らない単語も多く、かなり難しかったです。4年生といえども日本より

かなり進んだ英語授業をしていると、開始すぐに感じました。リスニングのあとは NSAIDsや抗がん剤などの薬を患者に説明するというライティングの問題を、15 問ほど解きました。薬に関しては日本語でもあいまいだったところがあり、もっとしっかり復習しておけばよかったと思いました。最後に英語で服薬指導のテストを行いました。まだ私は 3 年生なので日本語で服薬指導をしたことがありませんでした。しかしみんなが丁寧に教えてくれたおかげで、テストで先生がほめてくれるぐらいうまく服薬指導ができ、自信につながりました。

8. 観光

土曜日と日曜日は休みなので、シーナカリンウィロート大学の学生と観光にいきました。ただ、現地の大学生はテスト期間中だったので、大学から出ることができないときもあり、図書館で自習をしていました。タイの首都であるバンコクでは、たくさんの寺院を見たり、ショッピングをしたりして楽しみました。ほかにもたくさんの寺院を回る予定でしたが、寺院がそれぞれ離れた場所にあったり、ショッピングできる場所はさらに遠かったりと、とても忙しかったです。もしバンコクを観光するのであれば、寺院観光とショッピングは別々の日に分けたほうが賢明だと思います。ワットポーやほかの寺院には違う日に行きました。



アユタヤにも行きました。アユタヤは、たくさんの遺跡があるタイの古い王国です。ビルマ軍との戦争によって遺跡が壊されていることが多く、今もなお静かに戦争の生々しさを肌で感じる事ができました。またアユタヤでは象に乗ることもでき、象に餌をあげたり、直接触れたりすることができます。タイの歴史を学ぶこともでき、よりタイのことを知ることのできた中身の濃い一日でした。



ほかにも、JJ マーケットへ行ったりタイの船に乗って川を横断したりしました。JJ マーケットは、たくさんの店がある超巨大マーケットです。日本では考えられない物価の安さで掘り出し物が売られています。衛生面は悪く、いい意味でインパクトがありました。電車等を使って行っただけですが、初乗りが 50 円と非常に安く、日本の交通機関はなぜこんなに高いのかと疑問に感じずにはいられませんでした。川下りも 10 円と破格の安さで、驚きを隠せませんでした。

普段はシーナカリンウィロート大学の内のことしか知ることができませんが、大学から外に出て体験する出来事はすべてが初体験のことばかりでした。21 歳でタイで 1 ヶ月過ごしたこの経験はこれからの人生において財産になること間違いないと思います。そして帰国して日本の便利さと清潔さ、日本食の美味しさに改めて感動しました。

